

巨大地震から生き残るために!!

— 高めよう 自助力 —

日 時：令和元年11月21日（木） 10：00～11：30
場 所：名古屋市立 牧野小学校 視聴覚室
主 催：名古屋市立 牧野小学校PTA保護者会
牧野小学校家庭教育セミナー
目 的：今後、発生が懸念される巨大地震に備え、自助力（命を守る力）を
高めるためのセミナー。
参加者：39名
講 師：NPO法人 愛知県防災士会 防災士
櫻井 衛 （副理事長・兼 企画委員長）

防災講演の開催日は、名古屋駅の近くで
※G20が催される前日ということから、
テロなどの対策を講じるための交通規制が
始まり、交差点等に警察官の方が警備に当
たり、そういう意味では大変、物々しい中
で保護者の方がお集まりになられた「防災
講演」と言えます。

しかし、この教室の中は、外の物々しい
緊張感漂うという雰囲気よりも、どこか、
講師と受講者との間には、初めて会ったよ
うな遠慮より、打ち解けた仲間のような印
象さえ感じられました。

その様な中で、講師から今日に至る生い
立ちなどを含め、プロフィールを紹介しな
がら、本題の自助力を高めるセミナーへと
繋げて行きました。

南海トラフ巨大地震の予知ができると言
っていたのに、予知は不可能という実態を
示し、それに代わるものとして、気象庁か
ら発表される「東海地震に関連する情報」に傾聴しなければならないことを
説き、臨時情報はどんな時に発表されるか、3種類のパターンから実践的な



司会者から紹介を受ける櫻井講師

※

G20 愛知・名古屋外務大臣会合の概略

G20及び招待国等の外務大臣が一堂に
会し、世界経済の安定と持続的かつ包括的
な成長のほか、国際社会が直面する諸課題
について議論する会合です。

開催日程：令和元年11月22日(金)、

23日(日)の両日

会 場：名古屋観光ホテル

「備え」が必要であることを強調され受講者へ、そのことをしっかり伝えました。

大規模災害発生時の基本的スタンスは、自助70%、共助20%、公助10%の割合を示しながら、生き延びるために自助、共助の大切さ重要性を受講生にインプットしました。

南海トラフ巨大地震の予兆とも思われる地震の群発状況を表す日本地図を示し、仮に南海トラフ巨大地震が発生した時の当初の人的被害想定から中央防災会議結果で発表された減少試算に至る経緯を説明しました。試算が減少傾向にあった理由として、「備え」に対する反応から建物の耐震性向上や感震ブレーカーの普及など、自助の勧めが功を奏した結果となってきており、更に「備え」が広範囲に亘り加速されることを願い、受講生にその思いを託した形となりました。

そのあと、日本の活断層が、今、住んでいる中部地方にひずみが集中していることや濃尾地震、三河地震など過去に起きた地震を振り返り、また、熊本地震、大阪北部地震、更には、北海道は胆振東部地震において、ブラックアウトによって現金が無いと物が買えない状況など、最近の地震から学ぶことが出来た教訓を説き、更には、東日本大震災で起きた津波によって、大川小学校で多くの尊い命が奪われた事例を伝えると共に、同じような小学生を持つ受講生の母親の心の中へ「防災・減災」に対する「備え」は、普段から大切なんですよと、警鐘を鳴らしました。

南海トラフ巨大地震に限らず、地震が発生した時に外出していた場合、ブロック塀が倒れてきたり、ビル街ではガラスの雨が降ってきたりして、危険と隣り合わせになっているので、その時にパニックにならないよう対策・対応を予め覚えて行動することと、タイムライン（防災行動計画）と共に家族で話し合いの場を持つことも大切。また、お子さんが、被災した時のメンタルケアにも気遣って頂きたいことをお願いしました。

また、日常、家の中で生活している時に、地震が発生した場合でも安心・安全の拠り所となる家具等の固定について、具体的、かつ、しっかりと手ほどきをしました。

歴史は繰り返すという名言通りになる恐れのある巨大地震が来年に発生することが危惧していることと、名古屋市内の古地図から液状化、また、名古屋市中心部を縦横に2本走る活断層の存在を説明し、



講師の講話を真剣に聞く受講生



説明に熱が入る櫻井講師

最後になりますが

本日のキーワード

防災 ⇒ 減災

- ・まず、自分が生き残ること。
- ・そして、家族、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。

地道な対策や訓練の積み重ねが「減災」につながる

ということをお伝えして、防災講演を締めくくらせて頂きました。

文責・写真：阿部 健二